

2024年7月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第105回

<経営者感覚で働く>

2024年3月期の決算内容が既に発表され、東証プライム市場の上場企業の純利益が過去最高を更新し、日経平均株価も史上最高値を更新しました。これらの大きな要因として、円安が輸出競争力の追い風となっていることや、国内向け商品価格の値上げが浸透してきたことなどが挙げられるでしょう。

世界情勢が益々複雑化している今日、急に円高基調になる可能性や、円安が進み過ぎるリスクも想定出来、AIや量子コンピュータ等の先端技術を活用した企業間競争などを踏まえると、先行きの不透明感は増しています。モノ造り企業にとって避けて通れないQ(品質)、C(コスト)、D(納期)等の継続的対策と共に、イノベーションを組織全員で自発的に生み出して競争力を創出する時代になってきました。

働く人は強制されて行う仕事よりも、当事者が納得して実施した仕事の方が仕事効率は高くなり、仕事の計画段階から参画して納得して実施した仕事の効率は更に高くなることは、過去の多くの事例で確認されている経験則ですが、特に創造性を要する職種ほどこの傾向が強くなります。

働く人の特性は100人100様ですし、外国人やZ世代の加入も増えてきて、多様性を活かす経営を進めるためには、自発的精神による行動が不可欠となります。そのためにはビジョンの実現に向けた強い意志や責任感を伴いますので、まずは組織のミドルクラス以上の方が率先し、経営者感覚を以って事業競争力の強靱化に向けて働く時代だと感じています。

<経営者の立場で行動する>

経営者の立場で考える人は独自の洞察力を持ち、挑発的な疑問をぶつけてくる。そうした疑問に対する答えに従って態度や行動を決め、それによって会社の実績が左右される。そういう人は、こんな考え方をするのだ。「もし私が社長ならこういう状況で顧客にどう対応するだろう？この装置は買うべきなのか、投資すべきなのか？私が個人事業主だとしたら、従業員をどう扱うだろう？この委員会を開くのか、あの会議に出席するのか、出張するのか？」従業員が経営者の立場で事業を推進し、責任を持って行動させるようになるには何が必要なのだろう？ ~途中略~ 組織を変革するには、経営者の心が必要不可欠だからだ。

— 出典：「破天荒！サウスウェスト航空—驚愕の経営」

ケビン&ジャッキー・フライバーグ著 小幡照雄訳 —